



中部デザイン協会(宇賀敏夫会長)は、今年3月に国際デザインセンターで「ワーロン100年の歩み」と題し、講演会を実施した。講演者は、当協会の副会長でもある、渡辺敬文氏が務めた。

日本の創業百年企業は、3万3千社を超え、企業数は、国別ランキングで、世界トップであることはよく知られている。その一つが大正11年に創業したワーロンである。

講演の中で、初代社長渡辺喜代治氏の大ヒット商品が、セルロイド製玩具であ

中部デザイン協会講演会より



道家でもあり、和紙について造詣が深かったことが推測できる。膨大な研究と実験の結果、日本で初めて、和紙入りビニールシートの開発に成功した。昭和35年に特許を取得し、松坂屋で宣伝販売を行った。同年に愛知県建具商工業協同組合にも売り出した。翌年には、松下電器産業

かし、試練があった。アメリカは、セルロイドが燃えやすいことを理由に、輸入禁止を発表した。これに伴い国内の百貨店でも、販売自粛が広まり、会社も業界も窮地に追い込まれた。業界は、セルロイドに代わる材料として、難燃性の硬質塩化ビニールの開発に

100年企業から

学ぶもの

ったことを初めて知った。この玩具は、戦前・戦後に、食糧輸入のための海外輸出促進製品となった。し



榎山女学園大学学生生活環境デザイン学教授 滝本 成人

滝本 成人

たきもと・なりひと 工業デザイン。名古屋工業大学大学院博士後期課程社会学専攻修了。博士(工学)。

着手した。会社は、新たにホットプレス機を購入し、艶付け工程を担った。しかし、代替材料は、大手メーカーが採択された。次に、当時専務の渡辺豊氏は、残ったプレス機による用途開発に取り組んだ。従前から依頼があった、美術紙の両面を塩化ビニールシートで貼り合わせる工程をヒントにし、新たに和紙との複合を試みた。ここには、渡辺豊氏が書いた。

その後も、全国の和紙産業との連携、伝統色の追求、防災・抗菌・抗ウィルス性などの機能性を追求し、製品数を拡大している。

この講演会で、渡辺敬文氏より「ワーロンシートを100年後にも残る伝統製品にする」といった発言が、強く印象に残っている。百年企業のDNAは今、日本のインテリアデザインをはじめとした、ものづくり産業の基材となっている。文化・芸術・産業の川上源流を探っていくと、必ず材料・素材にたどり着く。ワーロンシートが、その一翼を担っていることを確信した。